

黒龍江省を訪ねて

昨年秋、中国東北部 黒龍江省を訪ね、当地の農業をつぶさに見る機会を得た。中国には役人時代5回訪問したことがあったが、ここ5年は両国間の微妙な関係を反映してかなわなかった。9月中旬、農林中金総合研究所と長年にわたり研究交流を行っている中国農業大学の招聘により一週間北京と黒龍江省を訪問した。私自身の個人的趣味もあるかもしれないが、初めて訪ねた黒龍江省には大変強い印象を受けた。

9月20日夜、北京から空路3時間で黒龍江省第三の都市ジャムス市に到着。このホテルまでが日本のクレジットカードが通用する限界であり、ここから先は人民元の世界となる。翌日ジャムス農業科学院で黒龍江省の農業開発に多くの日本人が貢献してきたこと、特に稲作の品種改良、移植栽培技術の導入、農器具の開発・改良に携わった日本人の先達に対して心からなる謝意が表された。また、この後向かった三江平原の開発に際しての湿害の克服において、新潟県の亀田郷土地改良区の佐藤藤三郎元理事長の名前が「井戸を掘った人」として挙げられていた。国レベルの支援については口を閉ざしているが、人レベルの貢献は高く評価されていた印象であった。

21日午後、三江平原の中核農業都市 建三江に向け高速道路を3時間走った。両側の車窓の風景は一面の水田で行けども行けども変化なし。さすが1,000万トンを大きく超える水稻生産量を誇る黒龍江省である。

建三江一帯は元々アムール川、松花江、ウスリー川の三つの大河に囲まれた大湿地帯であったところを、朝鮮戦争後退役人民解放軍兵士を入植させ開墾したところである(明治維新後の屯田兵やローマ帝国の植民都市と同じ発想である)。開拓記念館には中華人民共和国建国にも功績のあった王震将軍が荒地に火入れをする写真が掲げられていた。そんな事もあってか当地の建三江農懇局には軍隊的な雰囲気があった。

建三江は開拓地の中心に築かれた人工都市であり、碁盤の目のように道路が整備され、公共施設が配置されているが、すべてがここ数十年で建設されたものであり、歴史を感じさせるものは皆無である。農業関連の施設は数多くあるが、あくまで川上側であり、消費サイドに関連する流通加工施設等はお目にかからなかった(当然我が国でいうところの六次産業化が進展している兆しは無かった)。

建三江での宿泊先は官庁街からも程近い米都大廈という何やら象徴的な名前の農懇局直営の招待所であった。日本のカードが通用しないこと、従業員があまり

接客に熱心でないことなど、改革開放前の空気感が濃く漂っていた。

22日からの視察では、これでもかというぐらいに近代的農業技術の披露があった。農業研究センターでは何故か南洋の果樹の栽培をしていたり、農機センターでは農薬散布用の飛行機や精密農法のための土壌診断技術を見せてもらった。圧巻は気象センターの最新鋭のドップラーレーダーと人工降雨のためのヨウ化銀弾を発射する大砲であった。ドップラーレーダーで雹(ひょう)害を起こしそうな雲が検出された場合、事前に人工降雨させることで被害を未然に防ごうというものである。説明して下さる技術者の方々からは、科学技術を駆使すれば低コストで安定生産プラス減農薬、減化学肥料の近代農法が実現できるというナイーブな自信が感じられた。

一方、生産現場に出ると様子が少し違って来る。建三江の整然と整備された圃場では9月に入り稲刈りの真盛りを迎えていた。各農場では日本製のコンバインがかなり単収の良さそうな水稻をうなりを上げて収穫していたが、びっくりしたのはその収穫後である。圃場の横のスペースに広げられたブルーシートの上にモミが山積み干されていたのである。カントリーエレベーターやライスセンターに送られて乾燥調整、保管されるのではなく、お天道様だよりとは。農場間を移動してみると空いているスペースというスペースでモミが干されているのであった。

最新の農業技術を駆使しようとしている生産段階と収穫後のアンバランスはなぜなのか？

その答えの一部はロシア国境のアムール川を見たいということで対面交通の幹線道路を100km/時を超える猛スピードで移動中にあった。車窓に時々見える農業倉庫は今どこもモミで満杯だというのだ。中国ではかつての食糧管理制度に似た仕組みが生きており、モミの所有者は中国食糧局ということのようだ。農懇局の各農場が技術を駆使して品質の良い水稻を生産しても、消費との間には国が介在し、さらには国は在庫量の増大に苦しむと言えればいつかどこかで見た構図ではないか。

今回の訪問で黒龍江省の農業のおかれている状況の一端を知ることが出来た。諸課題の解決には制度と実態の面で息の長い改革努力が不可欠であることが良く認識できた。かつて当地の農業開発に多くの日本人が関わったと同様に、農業関係者の改革努力に私達も何らかの貢献をしたいものだと思いつつ9月24日当地を後にした。

((株)農林中金総合研究所 理事長 皆川芳嗣・みながわ よしつぐ)